

## 地上観測に関する Dr. Pavel Kabat の指摘について

## Discussion for the comments on in situ measurement by Dr. Pavel Kabat

# 近藤 裕昭 [1]

# Hiroaki Kondo[1]

[1] 産総研

[1] AIST

去る1月26日の名古屋大学における First SELIS International workshop 「Eco-Climate Dynamics in Eurasia / Monsoon Asia」において iLEAPS 共同議長である、Dr.Pavel Kabat は地上観測（主としてタワーによる Flux 観測）について以下の問題点の指摘をした。

- (1) タワー観測の代表性をどう考えるか
  - (2) データ解析の方法が標準化されていない。
  - (3) 一旦できた inter-disciplinary なコミュニティーが再分裂化の方向にある。
  - (4) on-line assimilation が全くできない。
  - (5) 京都議定書約束期間後には地上連続観測が重要。
  - (6) ヨーロッパには観測を継続するファンドがもう無い。
  - (7) 地上 flux 観測と衛星観測のパートナーシップが重要だが現状では要領を得ない。
  - (8) どう国際協力の枠組みを進めるのか。
- これらに対する現状での考えを述べてみたい。